

基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	研究科の専攻の設置										
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ヒロサキダイガク 国立大学法人 弘前大学										
フリガナ大学の名称	ヒロサキダイガクダイガクイン 弘前大学大学院 (Graduate Schools, Hirosaki University)										
大学本部の位置	青森県弘前市大字文京町1番地										
大学の目的	弘前大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の発展に寄与することを目的とする。										
新設学部等の目的	高度な専門的知識と技能、倫理観及び責任感を有し、多職種と連携しながら地域や職域の心理学的問題の解決に貢献できる公認心理師を養成する。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	保健学研究科 心理支援科学専攻 計	2年	6人	—年次人	12人	修士(心理学)	令和6年4月 第1年次	青森県弘前市大字文京町1番地			
【基礎となる学部】 医学部心理支援科学科											
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	保健学研究科 心理支援科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	45単位					
		8科目	8科目	4科目	20科目						
教	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計			助手
新設分	保健学研究科 心理支援科学専攻			5人 (5)	4人 (4)	0人 (0)	1人 (1)	10人 (10)	0人 (0)	10人 (10)	
	計			5人 (5)	4人 (4)	0人 (0)	1人 (1)	10人 (10)	0人 (0)	—人 (—)	
員	既	人文社会科学研究科									
		人文社会科学専攻（修士課程）			17 (17)	30 (27)	1 (4)	16 (16)	64 (64)	0 (0)	4 (4)
	組	教育学研究科									
		教職実践専攻（専門職学位課程）			25 (24)	15 (15)	1 (2)	3 (3)	44 (44)	0 (0)	15 (15)
		医学研究科									
		医科学専攻（博士課程）			39 (41)	31 (31)	20 (20)	35 (35)	125 (127)	0 (0)	3 (4)
		保健学研究科									
	保健学専攻（博士前期課程）			28 (28)	11 (11)	10 (10)	23 (23)	72 (72)	0 (0)	25 (25)	
	保健学専攻（博士後期課程）			28 (28)	11 (11)	7 (7)	8 (8)	54 (54)	0 (0)	5 (5)	
理工学研究科											
理工学専攻（博士前期課程）			41 (41)	32 (32)	3 (3)	21 (21)	97 (97)	0 (0)	43 (43)		

概 要 の 設 織	機能創成科学専攻（博士後期課程）	19 (19)	14 (14)	0 (0)	4 (4)	37 (37)	0 (0)	3 (3)
	安全システム工学専攻（博士後期課程）	24 (24)	17 (17)	0 (0)	2 (2)	43 (43)	0 (0)	4 (4)
	農学生命科学研究科							
	農学生命科学専攻（修士課程）	25 (25)	26 (26)	1 (1)	12 (12)	64 (64)	0 (0)	10 (10)
	地域共創科学研究科							
	地域リノベーション専攻（修士課程）	15 (14)	9 (8)	0 (1)	2 (2)	26 (25)	0 (0)	2 (2)
	産業創成科学専攻（修士課程）	14 (15)	12 (12)	0 (0)	7 (6)	33 (33)	0 (0)	0 (0)
	地域社会研究科							
	地域社会専攻（後期3年博士課程）	21 (21)	8 (7)	0 (1)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
	医学部附属病院	0 (0)	9 (9)	34 (34)	61 (61)	104 (104)	38 (38)	0 (0)
	被ばく医療総合研究所	3 (3)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
	地域戦略研究所	5 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	11 (10)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	国際連携本部	0 (0)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	4 (4)
	地域創生本部	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	教育推進機構	0 (0)	5 (5)	1 (1)	5 (5)	11 (11)	0 (0)	56 (56)
	COI研究推進機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	男女共同参画推進室	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	212 (213)	172 (168)	36 (41)	123 (122)	543 (544)	0 (0)	- (-)
	合計	218 (219)	196 (192)	72 (77)	192 (191)	678 (679)	38 (38)	- (-)
教員 以外 の職 員の 概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	309 (309)		297 (297)		606 (606)		
	技 術 職 員	832 (832)		358 (358)		1,190 (1,190)		
	図 書 館 専 門 職 員	3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	そ の 他 の 職 員	8 (8)		95 (95)		103 (103)		
	計	1,152 (1,152)		750 (750)		1,902 (1,902)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	201,817 m ²	0 m ²	0 m ²		201,817 m ²		
	運 動 場 用 地	82,910 m ²	0 m ²	0 m ²		82,910 m ²		
	小 計	284,727 m ²	0 m ²	0 m ²		284,727 m ²		
	そ の 他	860,407 m ²	0 m ²	0 m ²		860,407 m ²		
	合 計	1,145,134 m ²	0 m ²	0 m ²		1,145,134 m ²		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	132,688 m ² (132,688 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		132,688 m ² (132,688 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	101 室	139 室	540 室	17 室 (補助職員0人)	4 室 (補助職員0人)	大学全体		

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		保健学研究科 心理支援科学専攻			9 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	専攻単位での特定不能のため、 大学全体の数	
	保健学研究科 心理支援科学専攻	838,054 [223,239] (838,054 [223,239])	25,410 [6,387] (25,410 [6,387])	13,390 [6,380] (13,390 [6,380])	2,377 (2,377)	7,332 (7,332)	10 (10)		
	計	838,054 [223,239] (838,054 [223,239])	25,410 [6,387] (25,410 [6,387])	13,390 [6,380] (13,390 [6,380])	2,377 (2,377)	7,332 (7,332)	10 (10)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		7,351 m ²		640 席		840,306 冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		4,851 m ²		野球場 (2面)		武道場 (883 m ²)			
				弓道場 (140 m ²)		テニスコート (8面)			
				プール (50m)		サッカー・ラグビー場 (2面)			
				馬房 (196 m ²)		400mトラック			
経費の 見積り 及び 維持 方法 の 概要	区分	経費の見積り	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-
		図書購入費		-	-	-	-	-	-
	設備購入費		-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		-	-	-	-	-	-	-	
	学生納付金以外の維持方法の概要		-						
大学の名称		弘前大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
【学部】									
人文社会科学部		4	265	0	1,060	-	1.08	平成28年度	-
文化創生課程		4	110	0	440	学士(人文社会科学)	1.07	平成28年度	青森県弘前市大字文京町1番地
社会経営課程		4	155	0	620	学士(人文社会科学)	1.09	平成28年度	同上
人文学部		4	-	-	-	-	-	平成17年度	-
経済経営課程		4	-	-	-	学士(人文社会科学)	-	平成17年度	同上
									平成28年度 学生募集停止
教育学部		4	160	0	640	-	1.06	平成12年度	-
学校教育教員養成課程		4	140	0	560	学士(教育学)	1.05	平成12年度	青森県弘前市大字文京町1番地
養護教諭養成課程		4	20	0	80	学士(教育学)	1.08	平成12年度	同上
生涯教育課程		4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成12年度	同上
									平成28年度 学生募集停止
医学部		-	322	2年次20、3年次30	1,672	-	0.94	昭和24年度	-
医学科		6	112	2年次20	772	学士(医学)	0.93	昭和24年度	青森県弘前市大字在府町5番地
保健学科		4	200	3年次30	860	学士(看護学) 学士(保健学)	0.95	平成12年度	青森県弘前市大字本町66番地1
心理支援科学科		4	10	0	40	学士(心理学)	1.06	令和2年度	同上
理工学部		4	360	3年次10	1,460	-	1.01	平成9年度	-
数物科学科		4	78	3年次2	316	学士(理工学)	1.00	平成28年度	青森県弘前市大字文京町3番地
物質創成化学科		4	52	3年次1	210	学士(理工学)	1.01	平成18年度	同上
地球環境防災学科		4	65	3年次2	264	学士(理工学)	1.01	平成28年度	同上
									令和5年度 定員変更(27)

既設大学等の状況	電子情報工学科	4	55	3年次 2	224	学士(理工学)	1.04	平成18年度	同上	
	機械科学科	4	80	3年次 2	324	学士(理工学)	1.00	平成28年度	同上	
	自然エネルギー学科	4	30	3年次 1	122	学士(理工学)	1.00	平成28年度	同上	
	地球環境学科	4	—	—	—	学士(理工学)	—	平成18年度	同上	平成28年度 学生募集停止
	農学生命科学部	4	215	0	860	—	1.03	平成9年度	—	
	生物学科	4	40	0	160	学士(農学生命科学)	1.07	平成20年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
	分子生命科学科	4	40	0	160	学士(農学生命科学)	1.03	平成20年度	同上	
	食料資源学科	4	55	0	220	学士(農学生命科学)	1.02	平成28年度	同上	
	国際園芸農学科	4	50	0	200	学士(農学生命科学)	1.02	平成28年度	同上	
	地域環境工学科	4	30	0	120	学士(農学生命科学)	1.04	平成20年度	同上	
	【大学院】									
	人文社会科学研究科(修士課程)	2	16	—	32	—	1.21	平成11年度	—	
	人文社会科学専攻	2	16	—	32	修士(人文社会科学)	1.21	令和2年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
	文化科学専攻	2	—	—	—	修士(人文社会科学)	—	平成11年度	同上	令和2年度 学生募集停止
	教育学研究科(専門職学位課程)	2	18	—	36	—	1.05	平成6年度	—	
	教職実践専攻(修士課程)	2	18	—	36	教職修士(専門職)	1.05	平成29年度	青森県弘前市大字文京町1番地	
	学校教育専攻	2	—	—	—	修士(教育学)	—	平成6年度	青森県弘前市大字文京町1番地	令和2年度 学生募集停止
	医学研究科(博士課程)	4	60	—	240	—	1.03	昭和33年度	—	
	医科学専攻	4	60	—	240	博士(医学)	1.03	平成16年度	青森県弘前市大字在府町5番地	
	保健学研究科(博士前期課程)	—	42	—	96	—	1.11	平成19年度	—	
	保健学専攻(博士後期課程)	2	30	—	60	修士(看護学) 修士(保健学)	1.06	平成19年度	青森県弘前市大字本町66番地1	
	保健学専攻	3	12	—	36	博士(保健学)	1.19	平成19年度	青森県弘前市大字本町66番地1	
	理工学研究科(博士前期課程)	—	132	—	276	—	0.99	平成14年度	—	
	理工学専攻(博士後期課程)	2	120	—	240	修士(理工学)	1.03	平成22年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
	機能創成科学専攻	3	6	—	18	博士(理学) 博士(工学)	0.16	平成16年度	青森県弘前市大字文京町3番地	
	安全システム工学専攻	3	6	—	18	博士(理学) 博士(工学)	1.33	平成16年度	同上	
	農学生命科学研究科(修士課程)	2	50	—	100	—	0.89	平成14年度	—	

農学生命科学専攻	2	50	—	100	修士(農学生命科学)	0.89	平成24年度	青森県弘前市大字文京町3番地
地域社会研究科 (後期3年博士課程)	3	6	—	18	—	1.61	平成14年度	—
地域社会専攻	3	6	—	18	博士(学術)	1.61	平成14年度	青森県弘前市大字文京町1番地
地域共創科学研究科 (修士課程)	2	30	—	60	—	0.96	令和2年度	—
地域リノベーション 専攻	2	15	—	30	修士(地域共創社会学) 修士(地域共創工学)	0.96	令和2年度	青森県弘前市大字文京町1番地
産業創成科学専攻	2	15	—	30	修士(地域共創農学) 修士(地域共創経営学)	0.96	令和2年度	同上
<p>(附置研究所)</p> <p>名称： 被ばく医療総合研究所 目的： 本学における放射線被ばく医療に関する研究を推進し、各学部、各研究科等における教育の支援等を行うほか、緊急被ばく事故に対応できる専門的人材の養成を行うことを目的とする。 所在地： 弘前市大字本町66番地1 設置年月： 平成22年10月 規模等： 保健学研究科内</p> <p>名称： 地域戦略研究所 目的： 本学における新エネルギーの研究開発及び食料科学に関わる専門的かつ学際的な研究を推進し、本学の教育研究の進展と社会及び産業の発展に資することを目的とする。 所在地： (新エネルギー研究部門) 弘前市大字文京町3番地 (食料科学研究部門・企画戦略部門) 青森市大字柳川2丁目1番地1 設置年月： 平成30年4月 規模等： (新エネルギー研究部門) 土地 1,604㎡、建物 2,454㎡ (食料科学研究部門・企画戦略部門) 土地 524㎡、建物 324㎡</p> <p>(附属図書館)</p> <p>名称： 附属図書館 目的： 附属図書館は、教育、研究及び学習活動に資するため、図書、雑誌その他の資料を収集、管理し、本学の職員及び学生の利用に供するとともに、地域社会の図書館活動に協力し、学術情報の利用に寄与することを目的とする。 所在地： (本館) 弘前市大字文京町1番地 (医学部分館) 弘前市大字在府町5番地 設置年月： (本館) 昭和24年5月 (分室) 昭和24年5月 規模等： (本館) 建物 6,131㎡ (医学部分館) 医学部内</p> <p>(学部等附属施設)</p> <p>名称： 教育学部附属幼稚園 目的： 幼児に適切な環境を与えてその心身の調和的発達を助長するとともに、教育学部における幼児教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、幼児教育の促進向上のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを達成することをもって目的とする。 所在地： 弘前市大字学園町1番地1 設置年月： 昭和24年5月 規模等： 建物 1,065㎡</p>								

名称：教育学部附属小学校
目的：心身の発達に応じて初等普通教育を施し、併せて教育学部における小学校教育の実証的研究に協力し、又、学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるほか、小学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所在地：弘前市大字学園町1番地1

設置年月：昭和24年5月

規模等：建物 8,288㎡

名称：教育学部附属中学校

目的：小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、中等普通教育を施し、併せて教育学部における中学校教育の実証的研究に協力し、また、学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるほか、中学校教育の振興、向上発展のために、積極的に地域の教育機関に協力、寄与することを目的とする。

所在地：弘前市大字学園町1番地1

設置年月：昭和24年5月

規模等：建物 8,209㎡

名称：教育学部附属特別支援学校

目的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けるとともに、教育学部における知的障害教育の実証的研究に協力すること、教育実習の場となり、学生の実習指導を行うこと、知的障害教育の発展のため、積極的に地域の教育機関に協力することを達成することを目的とする。

所在地：弘前市大字富野町1番地76

設置年月：平成19年4月

規模等：土地 10,605㎡、建物 3,874㎡

名称：教育学部附属教育実践総合センター

目的：附属学校園及び他の教育諸機関並びに地域社会と連携し、教育実践と学修支援に関する業務を担い、実践的指導力を持つ教員の養成に寄与するとともに、地域社会の教育活動を支援することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町1番地

設置年月：平成13年4月

規模等：建物 541㎡

名称：教育学部附属教育養成学研究開発センター

目的：教員養成学（教員養成の方法と効果に関する理論的実証的研究）を推進し、カリキュラム開発等に反映させることを通じて教員養成諸活動の不断の改善に寄与することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町1番地

設置年月：平成15年10月

規模等：教育学部内

名称：教育学部附属次世代ウェルビーイング研究センター

目的：「超人口減少地域における限界状況を想定した次世代教育開発実装事業」として、次世代教育プログラムの研究開発普及を行い、子どもと教師・社会のウェルビーイングを持続的に創出することを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町1番地

設置年月：令和5年7月

規模等：教育学部内

名称：医学部附属病院

目的：医学の教育及び研究の目的をもって、患者の診療を行うところとする。

所在地：弘前市大字本町53番地

設置年月：昭和24年5月

規模等：土地 95,226㎡（本町地区全体）、建物 72,770㎡

名称：医学研究科附属脳神経血管病態研究施設

目的：脳神経疾患の成因・病態の解明、診断法の確立、治療・社会復帰促進などに関する研究の推進を目指す。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：平成11年4月

規模等：医学研究科内

附属施設の概要

名称：医学研究科附属高度先進医学研究センター
目的：プロジェクト型研究施設、共通機器施設としての機能を備え、疾病発生のメカニズムを分子レベルで解明し、実際の臨床の場に還元できるような研究を推進することを目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：平成17年4月

規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属動物実験施設
目的：実験動物の飼育管理の充実を図り、精度の高い動物実験による高度な研究・教育の推進を目指す。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：昭和54年4月

規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属子どものこころの発達研究センター
目的：様々な機関との連携を通じ、子どものこころの問題に関する医療的支援や教育・研究活動を進め、東北地区の子どもに対する支援体制の整備や、研究拠点の創生を目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：平成26年4月

規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属健康未来イノベーションセンター
目的：産学官民連携の下、子どもから高齢者までの幅広い世代における社会医学的・スポーツ医学的研究など幅広い学際的な研究を行い、国民の体やこころの健康増進に関する提言、各種講演会・研究会等の開催、共同研究や国際交流等による指導的人材の育成を通じ、地域の活性化に資するとともに、我が国における医学的観点からの体やこころの健康・支援対策の社会実装モデルを提案することを目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：令和2年8月

規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター
目的：多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築することを目的とし、総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：令和4年10月

規模等：医学研究科内

名称：医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター
目的：岩木健康増進プロジェクト健診で蓄積した超多項目ビッグデータをコアに、医療・福祉・介護に関するデータの利活用により、イノベーションを創出することを目的とする。

所在地：弘前市大字在府町5番地

設置年月：令和5年4月

規模等：医学研究科内

名称：理工学研究科附属地震火山観測所
目的：地震観測及び火山観測並びに地震及び火山に関する研究を行い、併せて学生の地震学の実習を行うことを目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地

設置年月：昭和56年4月

規模等：土地 2,434㎡、建物 145㎡

名称：理工学研究科附属医用システム創造フロンティア
目的：学内連携、地域連携による医用システムに関する研究、教育、社会貢献に関するCOC (Center Of Community：地域連携拠点)の機能を担い、研究分野では医学と理工学が協同し、地域企業との連携により新たな医用システム産業の創出を目的とする。

所在地：弘前市大字文京町3番地

設置年月：平成26年4月

規模等：理工学研究科内

名称：農学生命科学部附属遺伝子実験施設
目的：動植物微生物の遺伝子及びその機能に関わる基礎研究と動植物の品種改良など遺伝子工学に基づく応用研究を推進することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町3番地
設置年月：平成23年4月
規模等：建物 1,527㎡

名称：農学生命科学部附属生物共生教育研究センター
目的：フィールドサイエンス教育及び研究の拠点施設として、青森県の基幹産業である農業を教育・研究の両面から活性化し、地域の優れた人材、資源、技術、環境を地域から日本全国または世界へと発信することを目的とする。
所在地：（藤崎農場）南津軽郡藤崎町大字藤崎下袋7番地1
（金木農場）五所川原市大字金木町芦野84番地
設置年月：（藤崎農場）平成12年4月
（金木農場）平成12年4月
規模等：（藤崎農場）土地 142,607㎡、建物 2,370㎡
（金木農場）土地 358,798㎡、建物 4,806㎡

名称：農学生命科学部附属白神自然環境研究センター白神自然観察園
目的：本学の教育、研究、社会連携による地域貢献の推進を図ることを目的とする。
所在地：中津軽郡西目屋村大字川原平大川添101番地1
設置年月：平成30年4月
規模等：土地 178,560㎡、建物 255㎡

(学内共同教育研究施設)

名称：保健管理センター
目的：本学学生等及び職員の保健管理に関する専門的業務の実施に当たることを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町1番地
設置年月：昭和42年6月
規模等：建物 477㎡

名称：アイソトープ総合実験室
目的：放射性同位元素を使用する教育研究及び放射性同位元素の使用に関する安全管理を行うとともに、一般社会に対する放射線障害の防止に関する啓発を行うことを目的とする。
所在地：弘前市大字在府町5番地
設置年月：平成11年10月
規模等：医学部内

名称：出版会
目的：学術関連図書及び教科書の刊行・頒布を主たる事業とし、本学の研究とその成果の発表を助成するとともに、我が国の学術・教育・文化の振興・発展に寄与することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町1番地
設置年月：平成16年6月
規模等：附属図書館（本館）内

名称：資料館
目的：本学における歴史的、博物的、学術的資料を展示、保存及び整理し、教育研究及び学習活動に資するとともに、地域社会の教育文化の発展に寄与することを目的とする。
所在地：弘前市大字文京町1番地
設置年月：平成24年10月
規模等：教育学部内

国立大学法人弘前大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
弘前大学				弘前大学				
人文社会科学部				人文社会科学部				
文化創生課程	110	0	440	文化創生課程	110	0	440	
社会経営課程	155	0	620	社会経営課程	155	0	620	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	140	0	560	学校教育教員養成課程	140	0	560	
養護教諭養成課程	20	0	80	養護教諭養成課程	20	0	80	
医学部				医学部				
医学科	112	20	772	医学科	112	20	772	
保健学科	200	30	860	保健学科	200	30	860	
心理支援科学科	10		40	心理支援科学科	10		40	
理工学部				理工学部				
数物科学科	78	2	316	数物科学科	78	2	316	
物質創成化学科	52	1	210	物質創成化学科	52	1	210	
地球環境防災学科	65	2	264	地球環境防災学科	65	2	264	
電子情報工学科	55	2	224	電子情報工学科	55	2	224	
機械科学科	80	2	324	機械科学科	80	2	324	
自然エネルギー学科	30	1	122	自然エネルギー学科	30	1	122	
農学生命科学科				農学生命科学科				
生物学科	40	0	160	生物学科	40	0	160	
分子生命科学科	40	0	160	分子生命科学科	40	0	160	
食料資源学科	55	0	220	食料資源学科	55	0	220	
国際園芸農学科	50	0	200	国際園芸農学科	50	0	200	
地域環境工学科	30	0	120	地域環境工学科	30	0	120	
計	1,322	20	5,692	計	1,322	20	5,692	
		40				40		
弘前大学大学院				弘前大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
人文社会科学専攻(M)	16	-	32	人文社会科学専攻(M)	16	-	32	
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践専攻(P)	18	-	36	教職実践専攻(P)	18	-	36	
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻(D)	60	-	240	医科学専攻(D)	60	-	240	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	30	-	60	保健学専攻(M)	30	-	60	
保健学専攻(D)	12	-	36	保健学専攻(D)	12	-	36	
				心理支援科学専攻(M)	6	-	12	研究科の専攻の設置(事前相談)
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻(M)	120	-	240	理工学専攻(M)	120	-	240	
機能創成科学専攻(D)	6	-	18	機能創成科学専攻(D)	6	-	18	
安全システム工学専攻(D)	6	-	18	安全システム工学専攻(D)	6	-	18	
農学生命科学研究科				農学生命科学研究科				
農学生命科学専攻(M)	50	-	100	農学生命科学専攻(M)	50	-	100	
地域社会研究科				地域社会研究科				
地域社会専攻(D)	6	-	18	地域社会専攻(D)	6	-	18	
地域共創科学研究科				地域共創科学研究科				
地域リノベーション専攻(M)	15	-	30	地域リノベーション専攻(M)	15	-	30	
産業創成科学専攻(M)	15	-	30	産業創成科学専攻(M)	15	-	30	
計	354	-	858	計	360	-	870	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況							
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員		
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授	
人文社会科学研究所 人文社会科学専攻	修士 (人文社会科学)	文学関係 経済学関係 法学関係	人文社会科学研究所人文社会科学専攻	64	17	保健学研究科 心理支援科学専攻	修士 (心理学)	文学関係	保健学研究科保健学専攻	8	5	
									新規採用	2	0	
			計	64	17				計	10	5	
/						人文社会科学研究所 人文社会科学専攻	修士 (人文社会科学)	文学関係 経済学関係 法学関係	人文社会科学研究所人文社会科学専攻	64	17	
									計	64	17	

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
平成元年4月	人文科学研究科(修士課程) 文化基礎論専攻及び地域文化論専攻 設置	文学 社会学・社会福祉学	意見伺い(研究科)
平成11年4月	人文社会科学研究科(修士課程) 文化科学専攻及び応用社会科学専攻 設置	文学 法学 経済学 社会学・社会福祉学	意見伺い(研究科)
平成11年4月	人文科学研究科(修士課程) 文化基礎論専攻及び地域文化論専攻 学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)
令和2年4月	人文社会科学研究科(修士課程) 人文社会科学専攻 設置	文学関係 経済学関係 法学関係	事前伺い(研究科)
令和2年4月	人文社会科学研究科(修士課程) 文化科学専攻及び応用社会科学専攻 学生募集停止	—	学生募集停止(専攻)
令和6年4月	保健学研究科(修士課程) 心理支援科学専攻 設置	文学関係	事前相談(専攻)

教育課程等の概要																
(保健学研究科 心理支援科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前	2			○			1					兼1 オムニバス方式・共同(一部) 集中 オムニバス方式	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1前	2			○				1		1				
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1後	2			○										
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1後	2			○										
	福祉分野に関する理論と支援の展開	2前	2				○				2					
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2前	2				○			1						
	小計(6科目)	—	12	0	0			—	2	2	0	1	0	兼1	—	
理論と実践科目		心理的アセスメントに関する理論と実践	1前	2				○		1	1				オムニバス方式	
		心理支援に関する理論と実践	1後	2				○		1					兼1 オムニバス方式	
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1後	2				○		1	1					
		心の健康教育に関する理論と実践	2前	2				○			1					
	小計(4科目)	—	8	0	0			—	2	2	0	0	0	兼1	—	
実習科目		心理実践実習Ⅰ	1前	2				○		3	3				兼1 オムニバス方式・共同(一部)	
		心理実践実習Ⅱ	1後	3				○		3	3				兼1 オムニバス方式・共同(一部)	
		心理実践実習Ⅲ	2前	3				○		3	3				兼1 オムニバス方式・共同(一部)	
		心理実践実習Ⅳ	2後	2				○		3	3				兼1 オムニバス方式・共同(一部)	
	小計(4科目)	—	10	0	0			—	3	3	0	0	0	兼1	—	
臨床心理学		心理支援科学特論	2前	2			○			5	4		1		兼1 オムニバス方式	
		小計(1科目)	—	2	0	0			—	5	4	0	1	0	兼1	—
特別研究科目		保健学研究セミナー	1前～2前	2				○		1					兼4 オムニバス方式 集中	
		心理支援科学特別演習	1通	4				○		5	4					
		心理支援科学特別研究	2通	4				○		5	4					
		小計(3科目)	—	10	0	0			—	5	4	0	0	0		兼4
その他の科目		保健学連携セミナー	1前	2			○			1					兼4 オムニバス方式・共同(一部) 集中	
		地域心理支援職セミナー	1後	1			○			1						
		小計(2科目)	—	3	0	0			—	2	0	0	0	0		兼4
合計(20科目)			—	45	0	0			—	5	4	0	1	0	兼10	—
学位又は称号		修士(心理学)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
修士課程に2年以上在学し、専門科目及び特別研究科目並びにその他の専門科目の必修科目45単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(1学期))							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要																
(保健学研究科 心理支援科学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1前	2			○			1					兼1 オムニバス方式・共同(一部) 集中 オムニバス方式	
		教育分野に関する理論と支援の展開	1前	2			○				1					
		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1後	2			○									
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1後	2			○									
		福祉分野に関する理論と支援の展開	2前	2				○			2					
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2前	2			○			1						
	小計(6科目)	—	12	0	0				2	2	0	1	0	兼1	—	
理論と実践科目	理論と実践科目	心理的アセスメントに関する理論と実践	1前	2				○		1	1				兼1 オムニバス方式	
		心理支援に関する理論と実践	1後	2				○		1						
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1後	2				○		1	1					
		心の健康教育に関する理論と実践	2前	2				○			1					
	小計(4科目)	—	8	0	0				2	2	0	0	0	兼1	—	
実習科目	実習科目	心理実践実習Ⅰ	1前	2					○	3	3				兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部)	
		心理実践実習Ⅱ	1後	3					○	3	3					
		心理実践実習Ⅲ	2前	3					○	3	3					
		心理実践実習Ⅳ	2後	2					○	3	3					
	小計(4科目)	—	10	0	0				3	3	0	0	0	兼1	—	
臨床心理学	臨床心理学	心理支援科学特論	2前	2			○			5	4		1		兼1 オムニバス方式	
		小計(1科目)	—	2	0	0				5	4	0	1	0		兼1
特別研究科目	特別研究科目	心理支援科学特別演習	1通	4				○		2	1				兼0 —	
		心理支援科学特別研究	2通	4				○		2	1					
		小計(2科目)	—	8	0	0				2	1	0	0	0		兼0
専門の科他の	専門の科他の	地域心理支援職セミナー	1後	1			○			1					兼0 集中	
		小計(1科目)	—	1	0	0				1	0	0	0	0		兼0
合計(18科目)			—	41	0	0				5	4	0	1	0	兼2	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学研究科 心理支援科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 実習科目	心理実践実習Ⅰ	1前	2					○	2	1				兼1	オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部) オムニバス方式・共同(一部)
	心理実践実習Ⅱ	1後	3					○	2	1				兼1	
	心理実践実習Ⅲ	2前	3					○	2	1				兼1	
	心理実践実習Ⅳ	2後	2					○	2	1				兼1	
	小計(4科目)	—	10	0	0	—			2	1	0	0	0	兼1	
特別研究科目	保健学研究セミナー	1前～2前	2					○	1					兼4	オムニバス方式集中
	心理支援科学特別演習	1通	4					○	3	3					
	心理支援科学特別研究	2通	4					○	3	3					
	小計(3科目)	—	10	0	0	—			3	3	0	0	0	兼4	
専門以外の科目	保健学連携セミナー	1前	2					○	1					兼4	オムニバス方式・共同(一部)
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼4	
合計(8科目)		—	22	0	0	—			4	4	0	0	0	兼9	—

教育課程等の概要															
既設(人文社会科学研究科 人文社会科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
系専門科目技能	アカデミックライティング	1後	2				○		1	4		2		兼2	オムニバス方式
	小計(1科目)	—	2	0	0		—		1	4	0	2	0	兼2	—
専門科目	文化芸術コース														
	博物館学	1前		2			○			1					
	先史考古学	1前		2			○		1						
	歴史考古学	1前		2			○		1						
	西洋考古学	1前		2			○		1						
	民俗学	1前		2				○	1						
	視覚文化学	1前		2			○							兼1	
	美術史	1前		2			○					1			
	考古資料保存論	1前		2				○		1					
	民俗文化論A	1前		2				○		1					
	日本古典文学A	1前		2			○					1			
	日本現代文学A	1前		2			○							兼1	
	日本語学A	1前		2			○			1					
	日本仏教文学論A	1前		2			○					1			
	日本近代文学論A	1前		2				○						兼1	
	日本語教育学・語用論A	1前		2				○						兼1	
	倫理学	1前		2			○			1					
	東アジア思想史	1前		2			○					1			
	中国古典学A	1前		2			○							兼1	
	現代音楽思想	1前		2			○							兼1	
	日本宗教文芸思想	1前		2			○			1					
	中国宗教思想	1前		2			○							兼1	
	音楽文化史	1前		2				○						兼1	
	東アジア文学論A	1前		2				○				1			
	文化財科学	1後		2			○			1					
	博物館資料活用論	1後		2			○				1				
	考古学資料調査	1後		2				○		1					
	文化財保護活用論	1後		2			○			1					
	古代地中海文化論	1後		2			○			1					
	民俗文化論B	1後		2				○		1					
	ルネサンス視覚文化論	1後		2				○						兼1	
視覚芸術論	1後		2				○				1				
日本古典文学B	1後		2				○				1				
日本現代文学B	1後		2			○							兼1		
日本語学B	1後		2			○			1						
日本語史	1後		2			○							兼1		
日本仏教文学論B	1後		2				○				1				
日本近代文学論B	1後		2				○						兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	日本語学方法論	1後		2			○								兼1
	日本語学資料論	1後		2			○								兼1
	日本語教育学・語用論B	1後		2			○								兼1
	日本倫理思想史	1後		2		○			1						
	中国古典学B	1後		2		○									兼1
	音楽学	1後		2			○								兼1
	生命環境倫理思想	1後		2		○			1						
	東アジア思想文化論	1後		2			○					1			
	地域アート・プロジェクト論	1後		2			○								兼1
	東アジア文学論B	1後		2			○					1			
	中国文化論	1後		2		○						1			
	文化芸術コース特設講義	1後		2			○								兼1
	小計(49科目)	—	0	98	0		—		4	5	0	4	0	兼11	—
現代共生コース	一般言語学	1前		2		○									
	英語学	1前		2			○		1						
	英語構文学	1前		2		○									兼1
	近代イギリス文学	1前		2			○			1					
	現代イギリス文学	1前		2			○			1					
	近代アメリカ文学	1前		2			○			1					
	外国語教育論	1前		2		○									兼1
	言語文書処理	1前		2			○								
	アメリカ現代小説論	1前		2			○								兼1
	西洋古典学	1前		2		○			1						
	ドイツ語圏地域史	1前		2		○						1			
	中国史	1前		2		○			1						
	南アジア史	1前		2		○				1					
	イスラーム史	1前		2			○			1					
	日本古代史	1前		2			○					1			
	グローバルヒストリー論	1前		2		○				1					
	近代日本政治思想史	1前		2		○									兼1
	フランス地域論	1前		2			○			1					
	Intercultural Studies	1前		2			○			1					
	国際関係論	1前		2			○								
	ラテンアメリカ・カリブ地域論	1前		2			○								兼1
	共生社会論	1前		2		○				1					
	中国社会論	1前		2			○		1						
	多言語教育論	1前		2			○			1					
	アメリカ社会論	1前		2			○					1			
	文化人類学	1前		2		○									兼1
	憲法	1前		2			○					1			
	民法	1前		2			○			1					
	刑法	1前		2			○		1						
	商法	1前		2			○			1					
	労働法	1前		2			○					1			
	比較政治制度論	1前		2			○								兼1
	地方自治論	1前		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	言語規格論	1後		2		○									
	現代アメリカ文学	1後		2			○							兼1	
	言語類型論	1後		2		○									
	言語構造論	1後		2			○		1						
	言語統語論	1後		2		○								兼1	
	イギリス近代小説論	1後		2			○			1					
	イギリス現代小説論	1後		2			○			1					
	近代アメリカ文化論	1後		2			○			1					
	第二言語習得論	1後		2		○								兼1	
	西洋史	1後		2		○				1					
	日本近現代史	1後		2		○								兼1	
	ヨーロッパ古典文化史	1後		2		○			1						
	ドイツ文化論	1後		2		○					1				
	中国近世史	1後		2		○			1						
	南アジア近現代史	1後		2			○			1					
	西アジア地域史	1後		2		○				1					
	日本古代地域史	1後		2			○				1				
	現代ヨーロッパ論	1後		2			○			1					
	現代アメリカ論	1後		2			○				1				
	フランス文化論	1後		2			○			1					
	Quantitative Analysis of Culture	1後		2		○				1					
	平和学	1後		2			○								
	民族芸術論	1後		2			○							兼1	
	現代オセアニア論	1後		2		○				1					
	現代中国論	1後		2			○		1						
	オセアニア地域論	1後		2		○								兼1	
	政治学	1後		2			○							兼1	
	行政学	1後		2			○			1					
	人権論	1後		2			○				1				
	民事法制論	1後		2			○			1					
	刑事司法論	1後		2			○		1						
	経済法制論	1後		2			○			1					
	社会保障法	1後		2			○				1				
	現代共生コース特設講義	1後		2			○							兼1	
	小計 (67科目)	—	0	134	0		—		5	13	0	5	0	兼8	—
政策科学コース	ミクロ経済学	1前		2		○				1					
	マクロ経済学	1前		2			○			1					
	経済政策	1前		2		○			1						
	経済理論史	1前		2			○		1			1			
	日本経済史	1前		2		○						1			
	財政学	1前		2			○			1					
	労働経済学	1前		2		○			1						
	企業統治論	1前		2			○		1						
	経営組織論	1前		2		○				1					
	会計情報	1前		2		○			1						
	財務会計	1前		2		○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	原価計算	1前		2			○					1				
	経営史	1前		2		○	○					1				
	産業創出論	1前		2			○			1						
	サービスマーケティング論	1前		2		○			1							
	グローバル経営論	1前		2			○		1							
	経済学史	1後		2			○		1							
	産業組織論	1後		2		○				1						
	マクロ金融分析	1後		2			○			1						
	産業発展論	1後		2			○		1							
	現代企業論	1後		2		○			1							
	比較政治経済論	1後		2		○						1				
	金融論	1後		2		○			1							
	国際経済学	1後		2		○									兼1	
	地方財政論	1後		2			○			1						
	雇用政策論	1後		2		○			1							
	貿易政策論	1後		2		○									兼1	
	イノベーション論	1後		2			○			1						
	実証会計	1後		2		○			1							
	国際財務報告	1後		2		○				1						
	管理会計	1後		2			○					1				
	中小企業論	1後		2		○						1				
	ベンチャー企業論	1後		2			○			1						
	政策科学コース特設講義	1後		2			○								兼1	
	小計 (34科目)	—	0	68	0		—		8	7	0	3	0	兼2	—	
科目領域横断型	グローバル化と共生社会	1前		2		○			4	7		1		兼3	オムニバス方式	
	文化芸術社会の展望	1後		2		○			6	1		3		兼4	オムニバス方式	
	共生の時代の経済・産業政策	1後		2		○			4	7		1		兼1	オムニバス方式	
	小計 (3科目)	—	0	6	0		—		10	12	0	5	0	兼5	—	
プロジェクト研究	特別研究 I	1通		4			○		7	7		2				
	プロジェクト研究 I	1通		2			○									
	特別研究 II	2通		4			○		6	5	1					
	プロジェクト研究 II	2通		4			○									
	小計 (4科目)	—	0	14	0		—		9	10	1	2	0	兼0	—	
合計 (158科目)		—	2	320	0		—		18	27	1	13	0	兼19	—	
学位又は称号		修士 (人文社会科学)			学位又は学科の分野			文学関係、経済学関係、法学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了要件	1 学年の学期区分	2期
(1) 本研究科に2年以上在学すること。(特例として1年以上とする場合もある。)	1 学期の授業期間	15週
(2) 30単位以上修得すること。	1 時限の授業時間	90分
(3) 必要な研究指導を受けたうえ修士論文又は個別課題報告書の審査及び最終試験に合格すること。		
履修方法		
【修士論文選択者】		
(1) 必修科目 2単位 専門技能系科目を修得すること。		
(2) 選択科目 26単位以上		
①特別研究 8単位 ②所属コースの専門科目 10単位以上		
③所属コース以外の専門科目 4単位以上 ④多領域横断型科目から4単位以上		
(3) 自由科目 2単位以上		
本研究科で開講している専門科目及び多領域横断型科目から2単位以上(ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目から2単位まで含めることができる。)修得すること。		
【個別課題報告書選択者】		
(1) 必修科目 2単位 専門技能系科目を修得すること。		
(2) 選択科目 24単位以上		
①プロジェクト研究 6単位 ②所属コースの専門科目 10単位以上		
③所属コース以外の専門科目 4単位以上 ④多領域横断型科目から4単位以上		
(3) 自由科目 4単位以上		
本研究科で開講している専門科目及び多領域横断型科目から4単位以上(ただし、主指導教員との協議により大学院共通科目から2単位まで含めることができる。)修得すること。		
(履修科目の登録の上限：24単位(1学期))		

授 業 科 目 の 概 要			
(保健学研究科 心理支援科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理論と支援科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開 I	<p>(概要) 講義及びグループワーク、レポート作成を行い、保健医療分野に関わる公認心理師の実践を学ぶ。本科目を通じて、保健医療分野に関係する法律・制度、様々な職種の役割について理解できること、及び保健医療分野における心理支援、多職種連携に必要な理論（症候学・診断学）について理解を深めることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健医療分野の基礎として、医療安全や精神保健福祉、保健医療分野に関わる法律と制度、多職種連携に関わる職種とその役割について学修する。 医療分野での実践として、予診の取り方、診療録の書き方、患者との面接の進め方について学修する。 精神科・心療内科での実践として、生活習慣病と心身症、発達障害を含む精神障害の症候学・診断学、心理支援について学修する。 	
	教育分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要) 1. 教育分野の基礎として、教育相談、発達障害と特別支援教育、インクルーシブ教育、学校における倫理的配慮、多文化的背景を持つ子どもの心理的理解と支援について学修する。 2. 学校での実践として、教育分野における公認心理師の役割と主な業務、不登校及びいじめ問題の理解と支援、スクールカウンセリング、心理教育的アセスメント、緊急支援について学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）／全15回) (6 岡田敦史、10 榎引夏歩／2回) (共同) 授業の進め方や到達目標、成績評価方法について説明し、教育分野の特徴について概説する。また、スクールカウンセラーの「専門性」「人間性」「社会性」の3つの視点から学びについてまとめを行う。</p> <p>(6 岡田敦史／3回) スクールカウンセラーの役割と期待される支援について、事例などを通じて実践を学ぶ。加えて、コーディネーターとしての役割と緊急支援について実践で活用できる知識と態度を学ぶ。</p> <p>(10 榎引夏歩／10回) 教育分野における「制度と法規」「発達障害と特別支援」「学校教育アセスメントと心理支援」「学生相談」などについて臨床的課題と実践（心理支援法）について学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	保健医療分野に関する理論と支援の展開 II	<p>(概要) 講義及びグループワーク、レポート作成を行い、保健医療分野に関わる公認心理師の実践を学ぶ。本科目を通じて、保健医療分野で心理支援に必要な心理師の技能、多職種連携及び総合的支援のための連携について理解を深めること、及び、精神医療に必要な薬物療法及び心理介入法について理解を深めることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 精神科・心療内科での実践として、生活習慣病と心身症、発達障害を含む精神障害の薬物療法の基礎知識、個人・家族への心理支援、多職種連携及び総合的支援のための連携について学修する。 認知行動療法や集団心理療法を用いた心理介入法の理論と支援について学修する。 	

産業・労働分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>1. 現代の労働者が抱える問題について理解するために、働く人々を取り巻く社会情勢や課題、法律・制度、職業性ストレスに関する理論やモデルといった観点から解説する。</p> <p>2. 職場におけるメンタルヘルス体制づくりについて、事例を交えながら解説し、総合的支援のための連携について討論する。</p> <p>3. 職場のメンタルヘルス対策として一次予防から三次予防、ハラスメント、障害者就労、危機介入等について事例を交えながら解説し、実践についての討論を行う。</p> <p>4. 健康的で活力のある職場づくりを念頭においた職場のポジティブメンタルヘルス対策について事例を交えながら解説し、討論する。</p>	
福祉分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉を中心に福祉領域における心理職の支援の基本となる心理学的理論及び関連法制度について取り上げるとともに、支援の実際について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (6 岡田敦史／8回) 児童福祉及び障害者福祉の各領域における心理職の動向やアセスメント、関連法制度を踏まえた心理支援の実践法について学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝／7回) 高齢者福祉領域における心理職の動向について理解を深め、高齢者に対する心理的アプローチや認知症に対する非薬物的アプローチ、意思決定支援の実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	<p>(概要)</p> <p>司法・犯罪分野に関わる理論、及び公認心理師の役割、総合的支援のための連携について、各自の興味に従い、発表とそれに対する討論を通じて学ぶ。主に犯罪加害者と犯罪被害者に関する視点から、犯罪の原因論や処遇モデルの理論的背景、アセスメント技法、及び心理支援技法について、教材事例も取り入れつつ学ぶ。また、各分野について実務経験を有するゲストスピーカーを招き、現場での支援の実際について話を聴く機会を設け、司法・犯罪分野における心理支援の具体的なイメージを持てることを目指す。</p>	
理論と実践科目 心理的アセスメントに関する理論と実践	<p>(概要)</p> <p>1. 公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義について学ぶ。</p> <p>2. 心理的アセスメントに関する理論と方法について学ぶ。</p> <p>3. 心理的アセスメントの実践として、アセスメントで得られた情報の包括的理解、ケースフォーミュレーションの運用、アウトカムデータ・プロセスの測定と評価、医療分野での治療効果に関する情報提供、所見の書き方とフィードバック、多職種連携について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (5 井上直美／4回) 国際生活機能分類 (ICF)、操作的診断分類 (DSM、ICD)、診断・スクリーニング法としての構造化面接、症状評価の他、ロールシャッハテストについて学び、事例検討を行う。</p> <p>(7 大里絢子／11回) 公認心理師の実践における心理的アセスメントの目的・意義・臨床応用・倫理について学ぶ他、知能検査、発達検査、パーソナリティ検査について学ぶ。</p>	オムニバス方式
心理支援に関する理論と実践	<p>(概要)</p> <p>力動論、行動論・認知論、来談者中心療法の理論と方法、ブリーフセラピー、解決志向アプローチの理論と方法、発達論に基づく心理支援の理論と方法、保健医療分野でのコンサルテーション、多職種とのチーム援助について、臨床事例の検討とスーパービジョンを通して、学修する。</p> <p>また心理に関する支援を要するものの特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整として、特性や状況に配慮したケースフォーミュレーションと介入の選択と調整、総合的支援のための連携について学修する。</p>	

<p>家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践</p>	<p>(概要) アセスメントや介入、コンサルテーション・リエゾン、アウトリーチ、多職種連携や総合的支援のための連携等、保健医療分野及び福祉分野における家族や集団、地域社会において求められる心理支援の理論について学ぶ。また、求められる実践について臨床事例等を用いて討論し、講師の臨床経験も踏まえて解説する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (2 玉井康之／5回) 思春期～成人期における家族力動や集団力動、リエゾンチームにおける力動と支援の実際、被災地支援における危機介入の実践について学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝／5回) 高齢者の心理支援におけるアウトリーチ活動や、グループを対象とした心理療法、家族介護者や支援に携わる専門職に対する心理支援の実際について学ぶ。</p> <p>(19 三上珠希／5回) 乳幼児期におけるペアレント・プログラムやペアレント・トレーニング、幼児健診の実際及びその中における心理職の役割について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>心の健康教育に関する理論と実践</p>	<p>(概要) 本授業科目では講義及びディスカッション、グループ発表を行い、心の健康教育に関する理論と実践について理解する。本科目を通じて、心の健康教育に関する理論や支援方法、多職種連携や総合的支援のための連携について理解すること、心の健康教育について、自分なりの考え・答えを持ち、他者に説明できること、及び、心の健康についての予防プログラムを提案し、総合的支援のための連携を実行できることを目標とする。授業内容の概要を以下に示す。</p> <p>1. 心の健康教育に関する理論として、健康教育、健康増進及び、行動変容のための基礎理論、総合的支援のための連携について学修する。</p> <p>2. 心の健康教育に関する実践として、心理教育、ストレスマネジメント教育等、心身の健康への支援として、禁煙の支援、アルコール健康問題への支援等、及び災害からの回復支援として、危機介入、コミュニティへのエンパワメントについて学修する。</p>	

<p>実習科目</p>	<p>心理実践実習Ⅰ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の見学またはケース実習を4週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 心理面接（面接の基礎）、心理査定、多職種連携、地域援助活動について演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希)（共同） 保健医療分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、アセスメントの実際、健診の陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美) 司法・犯罪分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介、裁判員裁判の見学を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希)（共同） 学内実習として、心理面接（面接の基礎）、心理査定、多職種連携及び総合的支援のための連携、地域援助活動について、演習及びカンファレンスを通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>心理実践実習Ⅱ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療分野を中心に精神障害者の心理検査や診察の見学またはケース実習を4～8週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 心理面接（認知行動療法等）、心理査定（対面検査）について演習及びケースについてのカンファレンスを行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同（一部）) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希)（共同） 2施設の保健医療機関での実習を必修とする。保健医療分野の心理職の役割について講義、施設見学、心理検査、精神科診察の陪席、デイケアの参加、多職種カンファレンスへの出席等を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設（選択）での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希)（共同） 学内実習として、心理面接（認知行動療法）及び心理査定、多職種連携、総合的支援のための連携について、演習及びカンファレンスを通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>

<p>心理実践実習Ⅲ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療及び教育または福祉分野のケース実習を8週ずつ行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 担当したケースについて症例検討会で発表し、スーパービジョンを受ける。 3. 心理相談室で実際にケースを担当する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同)</p> <p>保健医療分野の施設での実習を必修とし、発達障害及び精神障害児者のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設において、障害者等のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ(選択)。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設において、心理相談や特別支援のケース実習を8週行い、心理支援の実践を学ぶ(選択)。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理相談室の活動に参加しながら、ケースカンファレンス及びスーパービジョンを行い、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>心理実践実習Ⅳ</p>	<p>(概要) 1. 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野のケース実習または見学実習を4週ずつ計8週行い、学習内容についてカンファレンスで発表し共有する。 2. 担当したケースについて症例検討会で発表し、スーパービジョンを受ける。 3. 心理相談室で実際にケースを担当する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)) (2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、7 大里絢子、19 三上珠希) (共同)</p> <p>保健医療分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、アセスメントの実際、健診の陪席、ケース実習を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(9 大庭輝) 福祉分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践、ケース実習を学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史) 教育分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介及び陪席を通じ、心理支援の実践、ケース実習を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美) 司法・犯罪分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介、裁判員裁判の見学を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之) 産業・労働分野の施設(選択)での心理職の役割について講義、施設見学、相談事案、多職種連携・総合的支援のための連携の紹介を通じ、心理支援の実践を学ぶ。</p> <p>(2 玉井康之、3 斉藤まなぶ、5 井上直美、6 岡田敦史、7 大里絢子、9 大庭輝、19 三上珠希) (共同) 学内実習として、心理相談室でケースを担当し、ケースカンファレンス及びスーパービジョンを行い、心理支援の実践を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>

臨床心理学研究法科目	心理支援科学特論	<p>(概要) 心理学及び医学・保健医療に関する高度な専門的知識と技能を修得するための基盤となる研究法を理解することを目標とする。心理学領域における臨床と基礎、及び保健衛生学領域における精神医学について、各教員が専門とする研究領域に関する講義を行う。論文を講読し、各領域における研究目的及び方法論を学び、結果と考察について理解を深め、心理支援への応用を考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (1 栗林理人／2回) 児童思春期における不登校、引きこもり、いじめの他、発達障害、その他の精神疾患などを取り上げ、学校における精神保健活動について講義する。</p> <p>(2 玉井康之／1回) 精神分析（精神分析的な精神療法）の代表的な理論を中心に講義する。</p> <p>(3 斉藤まなぶ／1回) 発達障害に関する海外のコホート研究を概説し、我が国の医学研究の動向と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(4 小河妙子／1回) 認知心理学や計算言語学などの学際領域における言語研究を概説し、心理言語に関する研究手法と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(5 井上直美／1回) パーソナリティ・アセスメントに関する歴史的展開を概観し、最新の研究動向について学ぶ。</p> <p>(6 岡田敦史／1回) カウンセリングにおける共感概念について体験過程理論とフォーカシングから概説し、アップデートしたカウンセリングを学ぶ。</p> <p>(7 大里絢子／2回) 臨床場面での心理アセスメントの実践に求められる態度、知識、技能について学ぶ。また、自閉スペクトラム症への早期介入に関する国内外の医学研究の動向と最新の知見を学ぶ。</p> <p>(8 朴白順／1回) 老年期の特に記憶の障害と支援に焦点を当て、臨床神経心理学的な視点から研究動向について講義する。</p> <p>(9 大庭輝／1回) 認知症の当事者とその関係者である家族等介護者、高齢者施設職員を対象とした老年臨床心理学の研究動向について講義する。</p> <p>(10 楢引夏歩／2回) 青年期におけるパーソナリティ障害と人格特性、及び児童生徒の心理的健康に焦点を当てた教育相談に関する研究を概説し、最新の研究動向について学ぶ。</p> <p>(19 三上珠希／2回) 小児期の摂食障害に関して最新の精神医学的知見を学ぶ。また、乳幼児期の母子支援に関して、海外と我が国の母子支援に関する動向と最新の医学研究の知見を学ぶ。</p>	オムニバス方式
------------	----------	---	---------

<p>特別研究科目</p>	<p>保健学研究セミナー</p>	<p>(概要) 1. 学術的研究手法を修得するために3期（1年前期、1年後期、2年前期）に分割して実施する。 2. 指導教員と連携をとりながら、研究計画、予備研究・本研究の経過報告、最終的に研究結果報告を行う。 3. 他領域の研究について知識や理解を深め、自身の研究にも役立てていく。 4. 7分程度のプレゼンテーションを各々実施し、質疑応答に対応する。</p> <p>(オムニバス方式) (2 玉井康之、11 高見彰淑、14 門前暁、15 千葉満、16 山本美由紀) 1年前期（8-9月予定）は研究計画報告書、発表。 1年後期（2-3月予定）は研究経過報告書、発表。 2年前期（8-9月予定）は研究結果報告書、発表。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>心理支援科学特別演習</p>	<p>(概要) 本授業科目は、当該院生の担当指導教員が、学生の研究テーマに応じて、担当教員各自の専門領域に関する主要な問題について講義を行い、またはプレゼンテーションを通して討論を行い、知識を深めながら学位論文作成のための研究計画を立案する。また、医療倫理・研究倫理を理解し、倫理申請書を作成することを目標とする。各自の修士論文の研究テーマについて幅広く文献をレビューし、その上で未解決の問題を取り上げ、綿密な研究計画を立案し、習得した心理学的方法論を使用して的確なデータの収集と分析を行い、実証的な研究としてまとめる能力を身につける。受講生が各自の興味に従い各教員のゼミに所属し、ゼミごとに少人数形式で研究指導を行う。</p> <p>(教員ごとに単独／全30回) (1 栗林理人／30回) 児童思春期精神医学の視点から、不登校などの問題行動を中心として、子どものメンタルヘルスに関する臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(2 玉井康之／30回) コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケア、思春期青年期精神医学、精神分析的な精神医学に関連する領域における臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(3 齊藤まなぶ／30回) 未就学児の発達及び発達障害の疫学及び生理学的研究、発達の性差、睡眠障害、コロナ感染症によるメンタルヘルスなどに関して研究指導を行う。</p> <p>(4 小河妙子／30回) 人間の言語情報処理過程について、認知心理学的アプローチによる研究を中心に実験心理学の指導を行う。</p> <p>(5 井上直美／30回) 心理アセスメントのツール自体の研究を中心に、心理療法の効果研究、効果的な治療技法の開発に関する研究などについて指導を行う。</p> <p>(6 岡田敦史／30回) フォーカシング指向アプローチに関する基礎と応用を中心に、人間性心理学、感情と身体・感覚イメージ、アレキシサイミアなど幅広く研究指導を行う。</p> <p>(7 大里絢子／30回) 臨床心理学、発達心理学、子ども心理学に関して、心理アセスメントなどの研究指導を行う。</p> <p>(8 朴白順／30回) 認知症や高次脳機能障害などの神経心理学的研究を中心に、研究指導を行う。</p> <p>(9 大庭輝／30回) 認知症の問題について心理学的研究を中心に、高齢者の心理、認知症ケア、対人援助職のメンタルヘルスや教育訓練など幅広く研究指導を行う。</p>	

<p>心理支援科学特別研究</p>	<p>(概要) 臨床心理学に関する多様なテーマについて、各自の興味関心に基づき、研究を進める。指導教員は、受講者の研究の実践、指導を行い、先行研究レビュー、研究計画の立案、調査・実験の実施、データの分析などについて修士論文指導を行う。</p> <p>(教員ごとに単独／全30回)</p> <p>(1 栗林理人／30回) 児童思春期精神医学の視点から、不登校などの問題行動を中心として、子どものメンタルヘルスに関する臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(2 玉井康之／30回) コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケア、思春期青年期精神医学、精神分析的な精神医学に関連する領域における臨床的研究の指導を行う。</p> <p>(3 斉藤まなぶ／30回) 未就学児の発達及び発達障害の疫学及び生理学的研究、発達の性差、睡眠障害、コロナ感染症によるメンタルヘルスなどに関して研究指導を行う。</p> <p>(4 小河妙子／30回) 人間の言語情報処理過程について、認知心理学的アプローチによる研究を中心に実験心理学の指導を行う。</p> <p>(5 井上直美／30回) 心理アセスメントのツール自体の研究を中心に、心理療法の効果研究、効果的な治療技法の開発に関する研究などについて指導を行う。</p> <p>(6 岡田敦史／30回) フォーカシング指向アプローチに関する基礎と応用を中心に、人間性心理学、感情と身体・感覚イメージ、アレキシサイミアなど幅広く研究指導を行う。</p> <p>(7 大里絢子／30回) 臨床心理学、発達心理学、子ども心理学に関して、心理アセスメントなどの研究指導を行う。</p> <p>(8 朴白順／30回) 認知症や高次脳機能障害などの神経心理学的研究を中心に、研究指導を行う。</p> <p>(9 大庭輝／30回) 認知症の問題について心理学的研究を中心に、高齢者の心理、認知症ケア、対人援助職のメンタルヘルスや教育訓練など幅広く研究指導を行う。</p>	
-------------------	--	--

その他の専門科目	保健学連携セミナー	<p>(概要) 現在強く求められている“当事者中心”の医療を実践するために、多職種が連携するチーム医療のあり方を一歩深め、所属領域のみならず、他領域専門職の特徴、役割や立場をよく理解したうえで、どのような“当事者中心”の連携実践が実現可能か考察する。授業はオムニバス方式で行い、看護学・放射線技術科学・検査技術科学・リハビリテーション科学・心理支援科学の立場からそれぞれの職域の概念と役割そしてチーム医療について講義を受ける。また、自分の職種に関するプレゼンテーション及びチーム医療についての事例検討をグループワークにて行う。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回) (1 栗林理人、12 佐藤真由美、13 加藤拓彦、17 對馬恵、18 阿部由紀子 / 2回) (共同) 本授業全体の流れと進め方及び評価などについて説明を行う。各グループで事例について発表を行い、全体討論を行う。</p> <p>(1 栗林理人 / 1回) 公認心理師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。</p> <p>(12 佐藤真由美 / 3回) 医療安全、看護職の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。</p> <p>(13 加藤拓彦 / 3回) 理学療法士・作業療法士の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p> <p>(17 對馬恵 / 3回) 診療放射線技師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p> <p>(18 阿部由紀子 / 3回) 臨床検査技師の役割と機能及びチーム医療について学ぶ。各グループで事例に対するチーム医療の発表資料を作成する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	地域心理支援職セミナー	<p>(概要) 1. 心理学の専門性を生かした支援職や多職種連携及び総合的支援のための連携の実践を、地域の各領域の心理職が紹介することにより、地域の課題を踏まえ、青森県内での心理学の知見を生かした将来のキャリアの見通しと目標設定が可能となるようにする。 2. 青森県内の各領域の第一線で活躍中のゲストスピーカーの講義を通して、地域における心理支援職に対する学習意欲促進を図る。</p>	